

子どものスポーツで結果を求めない？

スポーツの秋第2弾は、子ども時代は「スポーツで勝敗(結果)を求めない」ことです。勝つことだけがスポーツではないし、勝たなければスポーツではないということもありません。

もちろん「勝つ経験」も無駄ではありませんが、子ども時代は、エラーをしたり、ゴールを決められなかった、水泳で25メートル泳げなかった、かけっこで人の後ろ姿ばかり見えた、何でも良いから出来なかったり、勝者になれなかったりする「経験が大切」です。

負けたからと言って泣いたり、叱られたりするのとは、とんでもない話しです。子ども時代は、負けた時は笑顔で「負けちゃった！」で良いのです。「この次は頑張るぞ！」もありません。負けた時は「勝者を讃える心を育てる」ことが大切です。「プロセスを楽しめる身心」を創るのがスポーツの役目です。人に勝つことよりも腰も背中も痛くない大人になり、健康な生活や仕事を楽しめる方がずっと価値があります。体調充分で受験勉強ができ、テストに挑める方がいい結果につながるはずです。当然、万一受からなくても家から1歩も出ないような子どもには成らないはずです。

子ども時代は、良いも悪いも運動(動的な体験)も勉強(静的な体験)も音楽も友達も体験しておくことです。結果は大人になってから出るし、求める。それで良いと思います。

まっく体操クラブ 向井 忠義